

信号機の設置 早期実現を

R2年度に1基を設置



おなが まさひろ 議員 小永 正裕

横断幕のように塗り替えている。

地元の方々からは、「余りにも非常識だ。安全な道路になるようなお金の使い方をしてもらいたい」との厳しい意見が多いが、どうか。

問 大方改良道路については、供用開始直後から危険性を訴え、信号機の設置を早期に実現するように要望書を提出しているが、未だにその要望は叶っていない。この件の進捗は現状になっているか。また、あつてはならない事故、横断歩道を歩行中に、殆どノーブレーキ状態で衝突され、地元の方が亡くなられた。その後、事故現場の横断歩道を、お祝い事に使用する紅白の

答 金子まぢづくり課長 来年度に大方郵便局から浜の宮地区への交差点の1カ所で信号機設置予算が計上されているが、2基以上の設置は難しい。事故はあつてはならないので、信号機設置については、地元からも強く要望が出ているので、設置に向けて努力していく。



紅白に塗られた入野早咲地区の横断歩道



信号機設置予定の大方郵便局南側の交差点

入野松原要綱

松枯被害が酷すぎ、対応は

町のシンボルで守る責務

問 入野松原植栽美化実施要綱が制定されているが、これをどのように意識しているか。また、近年の松枯れ被害が本当にすさまじく、ひどいことになっているが、どのような予防策をしてきたか。

また樹幹注入、薬剤散布、討伐した材木の処分の仕方や作業の時期など、最適なタイミングに、再生に向け一生懸命取り組むべきではないか。

答 門田 産業推進室長

この要綱は、本町の生活、文化、観光の根幹をなす。町民にとつては心の故郷であり、かつシンボルでもある入野松原を、先人の偉業を讃えて、これを守り育て、後世へ伝え残すことの責務を目的に制定されている。

問 今西海洋森林課長

入野松原は、幾多の地震や大津波、台風等、戦争下でも、先人の努力と尽力により守り育てられた歴史がある。近年の町有林の被害は、平成29年度は1256本、平成30年度は2170本、令和元年度は2月末で1576本の被害が出た。

今後の取り組みは、①被害の早期発見、枯れ松は全部場外搬出焼却を行う。②薬剤散布時期の見直し。③樹幹注入の期間を3年間短縮。などの対応を行う。



伐採され、切り株の目立つ入野松原（大方球場東側）